

# 古民家を改修 ゲストハウスに

## ふるさとの五條市で

### 「彩 irodori」をオープン

子育てが終われば、ふるさとへ。五條市相谷町出身の工藤美雪さんは、そんな思いを持ってUターンし、古民家を改修してゲストハウスをオープンした。実家の横の古民家を譲り受け、業者と共に自らも床を剥がしたり、漆喰を塗ったりしながらリノベーション。今年3月末に営業許可を取得した。工藤さんが目指すのはこの空間で起こるたくさんの方々の反応。「外から来ていただきただけでなく、地元の方々に使っていただき、五條を盛り上げられたら」と語る。

就職を機に長野県へ移住した工藤さんは、夢科のリゾートホテルでの勤務や、開業したカフェで働きながら、子育てが終われば、



工藤美雪さん

「日常に彩りを加える町宿をつくりたい」とそのゴールに向かって準備を進めた。昨年、土地建物を譲渡してもらった手続きを終え、そしてクラウドファンディングにも挑戦。サイトでは、近くを走る趣のあるJR単線や幻の五新鉄道、貴重な建物が残る新町、何でもない小道・農道…。五條市の魅力

ふるさとの五條で何かしたいと考えるようになった。やるならば、地域に根ざし、地域を元気にすることがやりたい。調理師免許を持つ工藤さんは、飲食店を五條市内に出店しようと考えた。しかし市内の中心地のテナントでは、採算が合うかどうかの心配もあった。

そのころ、実家横で20年ほど空き家になっていた親戚が所有する古民家を「活かしてくれないか」と相談を受けた。しかしここは市街化調整区域。飲食店の展開は許可が難しく、制限を受ける。そこで出たアイデアが民泊だった。



大人数にも対応できる寝室

「日常に彩りを加える町宿をつくりたい」とそのゴールに向かって準備を進めた。昨年、土地建物を譲渡してもらった手続きを終え、そしてクラウドファンディングにも挑戦。サイトでは、近くを走る趣のあるJR単線や幻の五新鉄道、貴重な建物が残る新町、何でもない小道・農道…。五條市の魅力



大人数にも対応できる寝室

その結果、クラウドファンディングで集まった資金は265万1000円にも上る。工藤さんは「地元へ帰ってきてまさに浦島太郎状態のわたしに、この活動を通じて長野の知人をはじめ、たくさんの方々が応援してくれました」と振り返る。



床には県産木材を使用。農産物の加工場も準備

また「五條に来てくれる人たちに使っていただきたいのはもちろん、オープンイベントで地元の方々をご招待し、やってみて気付いたのが地元の人たちにも使ってもらえるニーズがあるんだということでした」とも。

息子夫婦が年に一度帰ってくるから。盆や正月、そんな日のために朝から布団や座布団を出して干したり、奥にしまっている食器を用意したり。「田舎」と呼ばれるこの地域にはそんな準備がある。またそれらを片付けるのも大変だった

息子の人が、県外からの人、ここを中心に「良い化学反応が起きれば、公民館の延長線上になれば」と工藤さん。今後は自身の飲食店のスキルを生かし、地元の農家が作る野菜や果物の加工食品を手掛けたらいいと意気込む。ゲストハウス内にそのスペースを用意し、現在準備を進めている。

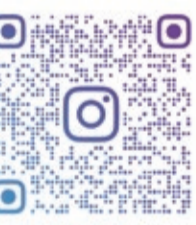
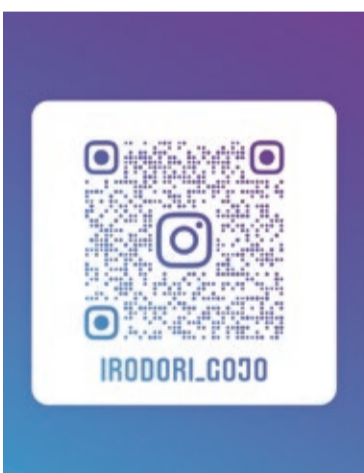
ゲストハウス

「彩 irodori」

奈良県五條市相谷町 548-2

irodorigojo@gmail.com

Instagramで情報を発信中



IRODORI.GOJO



## 感動のそばに、いつも。